



検査対象の遺伝子は、

- アルコール分解酵素 ADH1B遺伝子
…アルコールを分解する能力
- アルデヒド分解酵素 ALDH2遺伝子
…アセトアルデヒドを分解する能力を調べます。

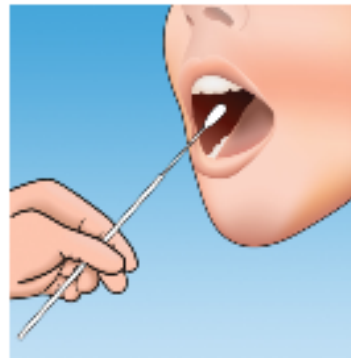
遺伝子型の組み合わせで、アルコール分解の体質がわかります。

アルコール分解酵素 遺伝子検査

アルコール分解の体質を知りましょう
生活習慣の乱れはアルコール依存症
食道癌のリスクを高めます！

検査方法

検査は簡単です。
口腔から採取した細胞から遺伝子を
抽出して遺伝子検査を行います。
採取は簡単で、痛みなどは伴いません。
※詳しい採取方法は、採取説明書をご確認ください。



花の丘病院健康管理施設 Animo

〒515-0052 三重県松阪市山室町707-3

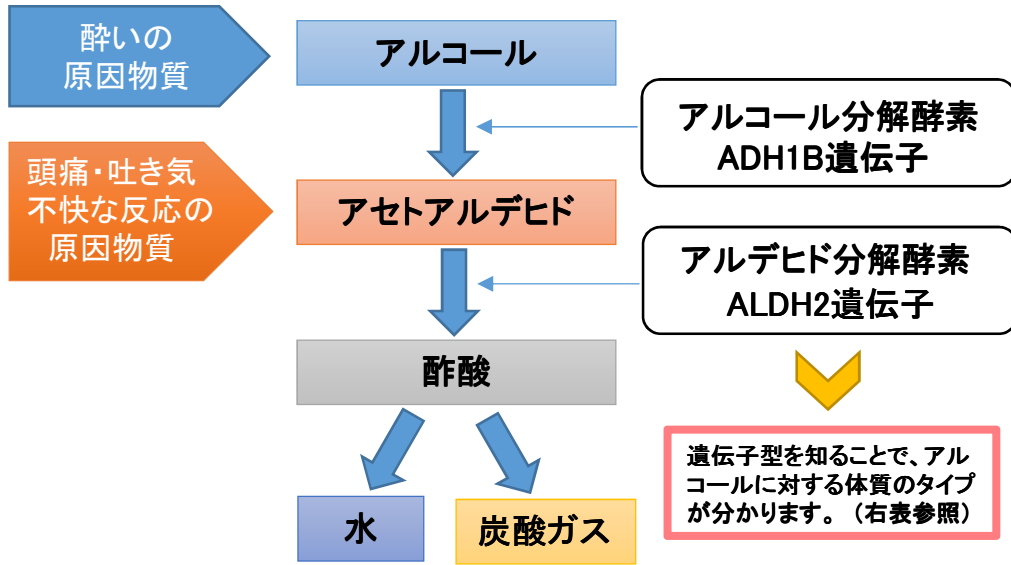
TEL : 0598-60-2002

メール : kensin.animo@gmail.com



お酒(アルコール)に「強い」「弱い」は、 アルコール分解酵素が関係しています

アルコールの代謝



飲酒・喫煙・遺伝子型の組み合わせと日本人の食道がんリスク

(症例/対照: 1070人/2836人)

タイプ	ADH1B / ALDH2	週に缶ビール7缶未満		週に缶ビール7缶以上	
		非喫煙	喫煙	非喫煙	喫煙
B	強い / 強い	1	1.8	1.9	3.4
A	弱い / 強い	1.9	3.3	6.9	12.4
D	強い / 弱い	1.7	5.7	7	23.7
C	弱い / 弱い	6.8	23.1	55.7	189.2倍

Cui et al Gastroenterology 137:1768-75 2009より一部改変

- 1) 表に記載されているタイプは、アルコール依存症になりやすい順にA-Eの5タイプに分類されています。Eタイプは、比較対象外です。
- 2) 多量飲酒と喫煙は食道がんのリスクを高めます。生活習慣が乱れている人ほど遺伝子自体によるリスクが急増しています。
- 3) 飲酒によるリスクは週96.5g以上の純エタノール摂取で増大すると報告されています。この純エタノール量96.5gはアルコール分5%ビールで350ml缶約7本分に相当します。

アルコール分解酵素の遺伝子型を調べ、 遺伝子型をA~Eタイプに分類します

タイプ	アルコール分解酵素 ADH1B	アルデヒド分解酵素 ALDH2	説明
A	弱い *1/*1	強い *1/*1	一般の人の4%、アルコール依存症では27% 飲酒で赤くなる不快な反応がなく、たくさん飲むと酒が抜けずに翌朝も酒臭い。 アルコール依存症に非常になりやすい体質。
B	強い *1/*2 *2/*2	強い *1/*1	一般の人の54%、アルコール依存症では60% 飲酒で赤くなる不快な反応が弱く、アルコールを速く分解するので、飲めるタイプ。 たくさん飲むと肝臓の負担が大きく、肝臓を壊したり、やせ型になりやすい。
C	弱い *1/*1	弱い *1/*2	一般の人の3%、アルコール依存症では4% 飲酒で赤くなる不快な反応がやや弱く、飲めるタイプと勘違いして飲んでいる人が多い。 たくさん飲むとアセトアルデヒドの毒性で、大球性貧血が起こりやすく、食道がんの危険が非常に高いので飲みすぎに注意。
D	強い *1/*2 *2/*2	弱い *1/*2	一般の人の33%、アルコール依存症では9% 飲酒で赤くなりももとは酒に弱い。鍛えて酒飲みになる人もいるが、たくさん飲むとアセトアルデヒドの毒性で、大球性貧血が特に起こりやすく、食道がんの危険が高いので飲みすぎに注意。
E	強い弱いのいずれでも	極めて弱い *2/*2	一般の人の7%、アルコール依存症では0% ごく少量の飲酒でもすぐに赤面し気持ち悪くなる、全くお酒が飲めない人。

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 横山 顕 先生 監修
横山 顕 (2013) 「多量飲酒と消化器のがん」『NEWS & REPORTS』Vol19-No2 2-7. (平成25年11月号)
アルコール健康医学協会より引用